

## ◆俯瞰メール第2世代001号◆

(社)俯瞰工学研究所 代表の松島克守のメールマガジンです。

俯瞰メールは100号で中締めとして、約半年間のお休みを頂いておりましたが、10月から第2世代として再開することにしました。これまで俯瞰メールを配信させていただいてきた方々にお届けします。最近名刺交換の機会がありませんが、あれば配信リストに追加させていただきます。俯瞰メール100号の配信は5,617名でした。

ここから第2世代を始めます。

第2世代といっても特に大きな変化はありません。アドホックな話題ではなく、半年間ほど継続的に私たちが生きている環境としての世界を、いくつかの視点で俯瞰的に情報の収集・分析・編集をしていきたいと思います。この「情報の収集・分析・編集」は東大で現在も続けている俯瞰経営塾のゼミの目的である「知的腕力」を鍛える鍛錬でもあります。“千日の稽古をもって鍛となし、万日の稽古をもって錬となす”宮本武蔵「五輪の書」。俯瞰メールを書き続けるのも、これです。ご意見、ご感想を頂けると励みになります。

最初のフェーズのテーマは、混沌の中で先が見えないコロナ後の今を認識するために、

- ・コロナ後の世界 社会・ビジネス・政治
- ・コロナ後の企業
- ・Gゼロの世界 地経学で理解する新冷戦
- ・資本主義、民主主義の未来は
- ・菅政権で日本は変わるのか 規制改革の進捗
- ・コロナ後日本の処方箋
- ・第78回俯瞰サロンのご案内
- ・近況報告として。俯瞰人の日常
- ・私感・雑感

とします。

コロナ後の世界は流動的で、「新常態」として収束し安定するには時間が掛かるとは思いますが、日本にとっては、オリンピックまでが一つのフェーズと考えます。関連する資料等は(社)俯瞰工学研究所のHP(<https://www.fukan.jp/>)の「俯瞰MAIL第2世代」にアップロードして置きます。時間のある方は参考資料を読んでいただくと俯瞰的な認識が深くなります。

10月12日 俯瞰人

---

## ◆時候のご挨拶◆

気象災害ともいうべき猛暑が終わると、一気に肌寒い秋です。今年は比較的台風は少ないですが、梅雨の季節の豪雨の被害を考えると、明らかに地球温暖化、海面温度上昇による人的災害と認識せざるを得ません。コロナと直接関係ありませんが、経済成長第一主義の反省、そしてグローバルイズムの見直しといったコロナ後の価値観や経済活動に大きな影響を与える事は間違いありません。すでに資本主義の投資基準が利益至上主義からESGを重視する基準にかわりました。

---

## ◆コロナ後の世界◆

### 増加し続ける感染者

世界では、このところ連日1日に200万人ペースで感染者が発生しています。フランスでは一日当たり1万人とコロナ収束の目処は立っていません。そしてこれからどうなっていくのか、依然として誰にも定かではありません。「新常態」という状態も未だ定かではなく、これを断片的な情報の集合から俯瞰的に見出していく必要があります。

欧米のロックダウンのような強制的な手段を避け、自粛という同調圧力で先の見えないコロナ危機の中を過ごしてきた日本人は、かえって今後に対する挑戦の意識が相対的に弱い事は問題だと思

います。なんとなく生きていても、コロナ後の世界で生き方を拓くことはできません。元の世界に戻ることはありません。

“国内景気回復 世界に遅れ 製造業、反発力弱く 9 月日銀短観 設備投資手控えて 米欧中は「コロナ前」に”（日経新聞 10 月 2 日 総合 1）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO64507390R01C20A0EA1000/>

に現れているように、コロナ危機という、先が見えない長いトンネルを訳も分からず歩いてきて、長い自粛モードで、すっかり日本のネガティブパワーが強くなり、経営者や調達担当者の意識も欧米に比べるとかなりネガティブです。ですから、この日本のメンタリティをポジティブパワーに変えていくことが、今、極めて必要なことです。従って私も個人的に、この 10 月から自身を含め周囲にもっと積極的に行動するように働きかけることにしました。人との会食も再開したいとおもいます。無論注意すべき要点は押さえた上で。

半年以上の with コロナの生活で社会、価値観、働き方、ビジネス、行政は変化してきましたが、この変化を漠然とではなく、

- ・すでに起きていた未来 急加速している変化
- ・コロナ収束後もこのまま残る変化
- ・コロナ収束後も一定程度残る変化
- ・コロナ収束後は元に戻る変化

と整理して再認識する必要があります。

このような整理なしには、ワーケーションとかテレワークとかオフィス閉鎖などを論じても仕方ありません。これをきちっと考える中で、これから先の可能性とチャンスが見えてきます。それに向かって準備と行動をしていくことが積極的な生き方です。

#### 収まらないコロナ感染、苦悩する欧米

感染人口が増え続けるアメリカ、第二波の感染で苦悩するヨーロッパを見るにつけ、日本のコロナ収束も見えませんが、とにかく前向きにことを考え、慎重であっても力強く前進することが、今一番大切ではないでしょうか。

フランスを中心としたヨーロッパ各国、コロナ危機をなんとか抑えこんで経済再建にアクセルを踏んできた国々が、これまで以上の感染者の増加に悩んでいます。ロックダウンのような強固な手段で一旦はコロナ感染を押さえ込んだ感じでした。そして飲食業や観光業を中心とした経済再生の方向にハンドルを切りアクセルを踏んできましたが、バカンスが終わり、その延長として人々のコロナ危機に対する緊張感が緩み、守るべき国のガイドラインを守らない人々が多かったのでしょう。

ロンドン、パリ、マドリッドは、きめ細かな地域を限定しながらも、強制的な規制と一部でのロックダウンが始まっています。その中で飲食店は、従業員の雇用問題からこれに強く反発しています。一方、政策として強制的な規制をしないで国民の自覚に任せ、社会的免疫を獲得することを目指してきたスウェーデンが注目されていますが、人口 100 万人あたりの死亡者数はヨーロッパ最悪のイギリスに並び、他の北欧諸国とはかけ離れた悪い数字になっています。とりわけ死亡者の大半が高齢者とあって結果的に高齢者の切り捨てにつながり、改めて対応が問題視されています。

ニューヨーク州は知事のリーダーシップがあって、アメリカの中では比較的コントロールされてきたと見えてましたが、最近再び感染が拡大し、学校封鎖を含めて再び規制を強める結果になっています。

一方アジアではマレーシアが感染拡大の兆しを見せていますが全体として感染症を抑えこんでいる状態です。特に中国は、報道を信じる限りはほぼ完全にコロナを制圧し、経済活動が前にも増して盛んになっています。各地の行楽地も人で賑わっています。

日本も全面規制であった海外からのビジネス関係者の受け入れを始めましたが、この結果がどう出るか、ですが。

インドや中南米そしてアフリカの状態は定かではありませんが、医療体制の問題もあり結果として社会的免疫を持つまでコロナ危機は収束しないのではないのでしょうか。

この中で来年のオリンピックをやるかやらないか、依然として大きな課題です。関係者は、出来る、出来ないではなく、やるかやらないかの判断で、やるしかないというような雰囲気が最近感じられます。欧米を中心とした感染の再拡大を見ると決行できるか判りません。

ワクチン開発と接種の範囲によりますが、結論からいうとこのような先が見えない状態が今後もかなり続くという前提で、新しい日常を再構築していくしかありません。

コロナ感染の世界的なデータは、下記にあるロイターの「COVID-19」が分かり易いです。さすが REUTERS です。

#### 参考資料

感染拡大地域で事業停止へ NY州、3段階で規制強化

<https://r.nikkei.com/article/DGXMZO64754400Y0A001C2000000?type=my#AAUAgaAAMA>

パリ市、新型コロナウイルス警戒を最高レベルに バーなど営業禁止へ

<https://www.bbc.com/japanese/54414246>

パリ、感染最悪レベルに 板挟みの政府、カフェ閉鎖断念

<https://www.asahi.com/articles/ASNB56RCVNB2UHBI02N.html>

英シネワールド、米英の全映画館閉鎖へ 最大で4.5万人が失業 再開時期は未定

<https://jp.reuters.com/article/health-coronavirus-cineworld-idJPKBN26Q1G7>

イタリア、屋外でマスク着用義務化 非常事態宣言も延長

<https://r.nikkei.com/article/DGXMZO64754870Y0A001C2000000?type=my#AAUAgaAAMA>

NY市で一部の学校閉鎖 州知事表明 店舗休業は見送り

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64652770W0A001C2000000/>

1日の新規感染者の記録更新 新型コロナウイルス、各地で猛威＝WHO

<https://www.bbc.com/japanese/54142998>

欧州で感染再拡大、英仏など規制再強化

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64116790S0A920C2MM8000/>

COVID-19

<https://graphics.reuters.com/world-coronavirus-tracker-and-maps/ja/>

---

#### ◆コロナ後の企業◆

##### 急加速する自動車のEV化

これは、すでに起きていた未来、急加速している変化、収束後もこのまま残る変化です。

コロナ危機前から脱炭素という環境保全の課題に直面して、ガソリンエンジンとディーゼルエンジンから電気自動車への流れは速い流れで進行してきました。スピードが命のレーシングカーやスポーツカーもEVに舵を切ってきました。そしてこのコロナ危機でこの流れは一気に加速しました。

すでに中国市場では先行するテスラが絶好調です。これを必死に追いかけるフォルクスワーゲンとメルセデスです。日本勢はいつもの通り、分かっているながらゆっくりとこの流れに乗ってきましたが、さすがに本気になりました。しかし、この流れに大きく遅れていることは明白です。初めてEVを市場に出すメーカーもあります。

電気自動車は絶好調といっても、まだ市場の20%にもいきません。まだまだガソリン車の需要がある、充電スタンドが少ない、まだハイブリッドでいける、という日本の環境変化に対する緩い対応

は、自動車業界全体が大きな構造改革をする中で、日本自動車産業が存在感をなくしていくのではないのでしょうか。かつての液晶と有機ELの交代劇のように。そして半導体産業も市場の変化に遅れて存在感を失いました。

ただEVは、これまでの自動車の最も付加価値が高いエンジンを含めたパワートレインがなくなりま  
すから、関連するサプライチェーンは急速に縮小します。そして大量の雇用が失われると予測され  
ています。現在のしがらみに引きずられて、いつものように環境変化に遅れ、世界市場での存在感  
をなくしていった歴史を繰り返してはなりません。ここがコロナ後の世界に生き残る要件です。

コロナ危機で自動車通勤など自動車交通が大幅に減少した結果、各国に青空が蘇り、改めて自動  
車が大気汚染の元凶であることが再認識されました。また在宅勤務やリモートワークもかなり有効  
であることがわかり、自動車通勤は大幅に減少するでしょう。したがってこれは、すでに起きていた  
未来が急加速する変化の代表例です。コロナ収束後も残る変化でしょう。産業構造の交代と、代わ  
りの雇用の創出が大きな課題として残されました。

コロナ危機で自家用車の需要があり、中古車が売れていますが、これで安堵する人はしょうがない  
ですね。

### ESG 投資

これもすでに、起きていた未来、急加速している変化、収束後もこのまま残る変化です。  
コロナ危機で資本主義が変わったとすれば、その一つは機関投資家の ESG 投資の意向で  
す。世界はもとより、日本でも大手銀行は ESG 投資に踏み切りました。投資実績においても  
ESG 投資が有利であることが分かってきました。したがって企業も ESG 投資も意識した事業展  
開が求められます。すでにかかなりの企業は、これに関する情報公開を始めています。

これについては経団連企業もかなり熱心ですが、実態がついていけるか疑問です。表向きは  
ESG 投資推進を掲げながらも、まだまだという日本の悪弊の結果、ここでも周回遅れが心配で  
す。これまでもビジュアライゼーションや行政のペーパーレスの遅れで、この対応で大きな問題  
を起こしました。急峻に進むコロナ後の環境変化に対応できなければ、日本経済はさらに沈む  
ことになります。問題点を列挙しながら前に進まない、日本の経済的な「日本沈没」が現実の  
ものとなります。

EV・PHV、独英仏でシェア 1 割超 9 月新車販売

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO64660950W0A001C2MM0000/>

コスト・機能で勝る中国 EV メーカー、なぜテスラに勝てないのか

<https://news.yahoo.co.jp/articles/243c715bc3ca36f709638596dca07ef5a8185402?page=1>

メルセデス、25 年までにコスト 2 割削減 EV に資源集中

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64706710X01C20A0000000/>

自動車メーカーの人員削減、世界で8万人超に—EV 時代到来で

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-12-04/Q1YMKCTOG1KX01>

ESG とは 環境・社会配慮や統治を通じ企業価値拡大

<https://www.nikkei.com/article/DGXXZO48483870R10C19A8NN1000>

[FT・Lex]シエル、再生可能エネルギーで出遅れ

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64515160S0A001C2000000/>

コロナで大気汚染が急減、科学者も驚く効果

工場停止と渋滞解消でサンフランシスコの二酸化窒素レベルは 20 世紀前半以来の低さに

<https://jp.wsj.com/articles/SB12496300001534684224104586370543133376626>

コロナ禍がもたらした大気汚染の改善 クリーン自動車普及の契機に

<https://www.sankeibiz.jp/business/news/200608/bsc2006080500001-n1.htm>

コロナウイルス後の温暖化対策

<http://ieei.or.jp/2020/04/sugiyama200410/>

日本は「グリーン度ゼロ」脱却しポストコロナ社会を

<https://mainichi.jp/premier/business/articles/20200612/biz/00m/020/004000c>

コロナ、脱炭素推進の好機に(The Economist)

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO59533370V20C20A5TCR000/>

急拡大する ESG 投資で日本が抱える最大の課題

<https://toyokeizai.net/articles/-/361390>

#### ◆G ゼロの世界 地経学で理解する新冷戦◆

##### コロナ危機で顕在化した米中の地政学的覇権争い

コロナ危機で顕在化した米中の地政学的覇権争いは、タフなディールで支持者の関心を買うというところから始まったかもしれませんが、今やその次元を超えて、アメリカは超党派で中国と本気で対峙する状態になりました。

もともと民主党政権のクリントンやオバマは、アジアにおける地政学的な認識が弱く、まだ古いパクス・アメリカーナの地政学的な認識で、中国の潜在的な競争力を、そして戦略的な外交プログラムを軽視してきました。

クリントン大統領は米中首脳会談後の共同声明で、米中両国の「建設的で戦略的なパートナーシップ」を謳い、会談を通じて三つの No(台湾の独立、「二つの中国」、台湾の国連加盟を認めないこと)を約束して関係強化を進めました。

オバマ大統領の「戦略的な忍耐」という北朝鮮に対する寛容な政策で、核開発と弾道ミサイル開発に時間と資金調達の間を与え、行動計画もない「核なき世界」でノーベル賞を受賞し、世界の平和に寄与したとアピールしてきました。結果、冷戦終了後の米ソの核兵器ミサイル削減の条約はなくなり、ロシアの一方的な軍拡と武器輸出を許すことになりました。自分の言葉に自分で酔うというナルシストです。リベラルも危ない人が多いです。日本でも古くは「非武装中立」とかを主張した学識経験者がいました。

気がついてみると、経済発展とともに巨額の軍事費を投入して着々と軍拡を続ける中国、その地政学的な力関係を使った南シナ海での実効支配の強行、香港や台湾に対する強圧的な対応、そしてしつこくも尖閣列島に侵入を繰り返す軍事大国の中国の脅威をやっと再認識したアメリカ外交です。

加えて積極的な発展途上国への援助で国連における影響力を強めている現状も衝撃だったのでしよう。

さらに気がつけば科学技術分野でも、自由で野放図であったアメリカの知財の流出によって急速にバイオテクノロジー、宇宙航空、人工知能などハイテク分野で中国の追い上げを背中を感じながら中国に追いつかれ、分野によっては追い越されるという脅威を、与野党ともにやっと実感したようです。

ですから、アメリカが強力に推進し、同盟国に強要している中国とのデカップリングの動きは、大統領選挙の結果によらず継続するでしょう。

アメリカはすでにこれまで、まず中国企業がアメリカ市場で資金調達をする道を制限し、過度に中国に依存していたサプライチェーンの見直しを進め、ハイテク産業そして軍事技術の「米」である半導体関連の技術流出を止め、中国の半導体産業およびそれに関連する産業の成長を妨害し、特にすでに手に負えない存在になってしまったファーウェイについては徹底的な排除を同盟国に半ば強制的に求めてきました。

中国の巨大な経済力に依存してきた EU・ヨーロッパもアメリカと同様に中国の戦略的な脅威にやっ  
と目覚めて、最初無視していたアメリカのファーウェイの 5G 排除についても足並みをそろえてきま  
した。とりわけヨーロッパはその根本的な理念である「人権」について香港での抑圧、ウイグル族に  
対する抑圧に強く反発し中国との関係を改めて見直す方向になっています。

中国も戦略的な地経学の展開を「一帯一路」として、がむしゃらに推進してきました、しかし具体的  
な結果が出せず、かつ強権的な言動に各国が疑念を持ち始めかえって影響力を失っています。  
しかし習近平は、コロナ危機を収束させた実績を共産党の指導だとして、内外に強硬な行動をむし  
ろ強めています。これにバランスが取れる国際的なパワーが、今は不在です。アメリカは国内・国  
際ともに混乱の極みで、EU も英国離脱含めヨーロッパの統合すら揺れ動いています。

ともあれ、2013 年に中国が対外政策を、鄧小平氏が唱えた能力を隠して力を蓄える「韜光養晦」か  
ら、発奮して為すところがある「奮発有為」に転換したことを認識すべきです。

ただ軍事力の威嚇で実効支配を拡大する行動は 100 年以上前の列強のやり方で、現代にはそぐ  
いませんし、国際的に尊敬される国にはなりません。

大国中国と近隣のベトナムやフィリピン、大国のロシアと近隣のウクライナ、地域大国のトルコと近  
隣のギリシア、そして最近のアルメニアとアゼルバイジャンの戦争などをみると、ロシアは当事者双  
方に武器を売り、そして和平の仲介もしています。トルコは公然とアルメニアを支援しています。イ  
スラエルも武器輸出で利益を上げています。ロシアはシリア北部でアサド政権を空爆で支援して反  
政府勢力の掃討を助け、多数の民間人死傷者と難民を生み出しています。  
「強者は好きなように振るまい、弱者は耐えるしかないまま苦しむ」という最悪の G ゼロの世界にな  
ってしまったのです。

地政学 地理的な環境が国家に与える国際政治、軍事的、経済的な影響を、巨視的な視点で研  
究するものである。<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E6%94%BF%E5%AD%A6>

「地経学」という言葉は近年、国際政治でしばしば使われる。地政学的な目的のために経済を手段  
として使うこと。船橋洋一

#### 参考資料

EU、対中関係を軌道修正 自由・民主主義で妥協できず

EU・中国首脳会議、EU、香港問題などに懸念表明へ

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO63800180U0A910C2EA1000/>

ドイツ、5G でファーウェイ制限

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64457000R01C20A0000000/>

近づくなど米空母に警告ー中国のミサイル発射、米軍基地もけん制か

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2020-08-27/QFPMRZDWRGG301>

国連人権理事会 香港、新疆問題で多数の国の代表が中国支持を表明

<https://www.afpbb.com/articles/-/3304980>

米商務省は 18 日、中国企業の動画共有アプリ「Tok-tok」とチャットアプリ「微信(ウィーチャット)」

について、20 日から米国内での新規ダウンロードを禁止

<https://www.bbc.com/japanese/54215429>

米政府、中国 5 社製品使う企業の取引排除 来月から 日本企業 800 社対象

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO61585150W0A710C2MM8000/>

激化する米中「第 2 次冷戦」 死を迎えたチャイメリカ

<https://www.asahi.com/articles/ASN6M4Q6QN62UPQJ00V.html>

米中対立の行方

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO64428000Q0A930C2TCS000/>

米トランプ政権 中国の南シナ海 海洋権益主張は「違法だ」

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200714/amp/k10012514261000.html>

対米投資規制、27 産業で事前申告義務化 中国をけん制

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO36343980R11C18A0EAF000/>

ドイツ、外国企業の出資規制を強化へ 中国勢の買収に警戒強める

<https://www.afpbb.com/articles/-/3202395>

英国、5G通信網からファーウェイを排除ー2027 年までに完全撤去

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2020-07-14/QDGKYBDWRGGE01>

テレコム・イタリア、ファーウェイを入札排除へ 5G通信網巡り

<https://news.yahoo.co.jp/articles/88d403751872a7897507b8a5a756789bbc381663>

ファーウェイ包囲の切り札 米半導体設計ツール断絶

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO61231450X00C20A7000000/>

米、世界の供給網から中国排除へ取り組み加速＝当局者

<https://jp.reuters.com/article/health-coronavirus-usa-china-idJPKBN22G1WZ>

中国企業の上場制限へ 米ナスダックが厳格化

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020052000229&g=int>

#### ◆資本主義、民主主義の未来は◆

##### 中国の地政学的な脅威を認識したヨーロッパ

G ゼロの世界で議論しましたが、アメリカが主導する中国との新冷戦にヨーロッパ諸国が一定程度歩み寄った背景には、民主主義に対する危機感があります。ロシアにかなり合わせてきたドイツも、スパイ映画のように政敵を次々と暗殺するプーチンのやり方には強い危機感を感じたわけです。そして G ゼロの世界のコロナ危機で広がった力の空白を地政学的に埋めようとする中国の強引な行動にも危機感を覚え、中国とのデカップリングを一定程度受け入れることになったと思います。それまでのヨーロッパは中国の経済力に対し前のめり状態でした。とりわけイギリスは EU 離脱前から中国経済に対する依存を高めてきました。

一方 EU はイギリスの離脱に加え、新しく加わったポーランドやハンガリー、ウクライナそして最近ではベラルーシなど共産党時代の独裁専制的な政権の跋扈に手を焼いていました。民主主義そしてこれに基づく資本主義の原理は、EU が寄って立つ原理です。ここを脅かすロシアと中国の地政学的な膨張は我慢の限界を超え、無視・看過できないと判断したのでしょう。そして日本、インド、オーストラリア、アメリカが共同歩調を取る中国包囲網である「インド太平洋構想」にも歩み寄ってきました。かつてはアメリカが単独でこの地域の安全保障を担保してきましたが、トランプ政権以降急速に影響力が落ちてきたアメリカにかわり多国間安全保障の新しい枠組みが進み、それにアメリカのポンペイオ国務長官が積極的に介入してきました。二国間交渉とディールに傾斜したアメリカの単独主義にポンペイオ国務長官も限界を感じたのでしょう。彼は元々ウェストポイントの陸軍士官学校の卒業生で、ハーバード大学ロースクール法務博士ですから、地政学についてきちんとした認識があるはずで

##### 冷戦終結から 30 年

ベルリンの壁の崩壊で東西冷戦が終結した劇的そして歴史的な転換点から、気がつけば 30 年経ちました。ソ連が指導する共産圏と自由主義経済のデカップリングが終結して 30 年、世界経済は境界のない世界でグローバリズムを展開し大きく成長してきました。旧共産圏も著しい経済成長を成し遂げました。

そして気がつくと、ソ連に代わる中国という地政学的、地経学的脅威が目前に存在する G ゼロの世界です。

そしてデカップリングが始まるとすれば、わずか 30 年で繁栄した世界経済、ヨーロッパ経済が享受した時代が終わります。それは以前のような完全な形ではないでしょうか、何が起こるか分からない現在の G ゼロの世界では、企業はコストをかけてもデカップリングに対応できるビジネス構築をする必要があります。とりわけサプライチェーンについては、デカップリングを想定した組織構成が求められます。

急速に成長している EV においては、中国のレアメタルが必須です。これに対応するため中国国内に調達と生産の拠点を持たざるを得ません。幸いかつては経済のアキレス腱であった石油については、アメリカを中心に分散した供給源を低コストで確保することができる時代になりました。人権という民主主義の根幹と経済成長という実利の追求のジレンマにヨーロッパは悩むことになるでしょう。

### グローバリズムの見直し 規制強化に直面する GAFA

1990 年の「ドイツ再統一」東西冷戦の終結で、グローバリズムの自由市場、そして奇しくも 1990 年代から始まったインターネット革命のテクノロジーイノベーションの波に乗り急激に成長し世界経済を我が物にしてきた GAFA も、ヨーロッパを中心とした政治的な規制に直面しています。すでにほとんど制御不能な状態にまで巨大化したアメリカの IT 企業は、結果として市場の独占を通じて新しい参入者を潰し、イノベーションの停滞すら引き起こしている現状に、いよいよ国際政治が動き始めました。

国境がない世界、見えない商品、輸出入管理が出来ない取引で、旧来の税制の盲点をつき税金を支払わない GAFA のデジタル取引に徴税することになりました。ここでは自国の税収を守るアメリカと、税収を徴収できないヨーロッパが鋭く対立しています。

IT 大手についてはアメリカ国内においても議会でも問題点が議論され、企業分割を含めた政治的な動きが出てきました。

グローバリズムという、開かれた新しい資本主義の欠陥を修正する動きです。かつて IT 業界は IBM の市場と技術の独占に対して独禁法で厳しく行動を制限し、その隙間から Microsoft が成長し、その Microsoft も独禁法の規制を受けるようになり、その隙間から現在の GAFA が成長してきました。これは極めて健全な資本主義のメカニズムです。しかしその GAFA は、アメリカ国内に閉じた市場ではなく世界各国の市場から巨額の利益を挙げています。国家権力の根本である徴税権をこれに対して行使することは、これまた民主主義と資本主義の根幹でもあります。この健全で自律的な資本主義のメカニズムが働けば、資本主義はさらに発展できます。

一方、デカップリングの世界で、中国の国家資本主義という新しい資本主義が新興国に評価され広がれば、世界は再び深刻なデカップリングの世界になります。

独首相、プーチン氏に我慢の限界(The Economist)

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO63817640U0A910C2TCR000/>

中国に人権カードを突きつける欧州

<https://www.jiji.com/jc/v4?id=20200928world0001>

ベラルーシ大統領、危機打開へロシア接近 首脳会談

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO63809240U0A910C2FF8000/>

「ダラサコール開発」の中国企業に制裁 トランプ政権

[https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200916/k10012620651000.html?utm\\_int=news-new\\_contents\\_list-items\\_001](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200916/k10012620651000.html?utm_int=news-new_contents_list-items_001)

欧州すくむ民主主義、大衆迎合が台頭 ドイツ統一 30 年

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64567200S0A001C2MM8000/>

独首相「壊せない壁ない」ベルリンの壁崩壊 30 年で式典



<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO52003590Z01C19A1I00000/>

「デジタル課税」年内合意見送りへ 米欧対立激化 IT 規制に大きな遅れか

<https://mainichi.jp/articles/20201007/k00/00m/030/296000c>

「巨大 IT の規制強化を」 米下院が報告書、分割も提言

[https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64707120X01C20A0000000/?n\\_cid=BMSR3P001\\_202010070622](https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64707120X01C20A0000000/?n_cid=BMSR3P001_202010070622)

「大手 IT が市場を独占」 米下院調査報告書の要旨

[https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64707260X01C20A0000000/?n\\_cid=DSREA001](https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64707260X01C20A0000000/?n_cid=DSREA001)

#### ◆コロナ後の日本 どう変わる、どう変える◆

菅政権で日本は変わるのか、得点を上げる前に、オウンゴールで失点？

菅政権は安倍政権の悪いところをまず継承してしまったようです。強権という専制的な手法で物事を進める手法です。学術会議の6人委員候補者を承認しなかったというオウンゴールの失点です。

「学問の自由」と「不戦の誓い」は、日本国民に先の戦争の反省点として刷り込まれている極めて微妙な感情です。東大の美濃部達吉教授の「天皇機関説」の発禁事件、京都大学瀧川幸辰教授の発禁事件は、軍部に対する学問の自由の戦いとして、国民は教科書でスリ込まれていますし、戦争放棄の憲法9条も国民全体に共有されている不戦の誓いです。安易にこの「学問の自由」に触れるような意思決定を菅首相がしたことによって、彼に対する国民の淡い期待感は飛んでしまったかもしれません。周囲の官僚出身のスタッフは、6人の問題で済むわけでないことは当然よくわかっていたと思いますが、懸念を口にできないような専制的な安倍内閣からの空気はそのまま残っているでしょう。または警察官僚の4人の補佐官がこれを主導したのか。何しろ6名の候補者に共通することは、激しく「安保法制」に反対意見を述べたことですから。

菅首相は、俯瞰的な視野でもっとバランスの取れた判断を下していくと評価が上がると思いましたが、これに関する新聞記者の質問に対する態度も傲慢で横柄な感じでしたから、メディアの多くの気持ちが離れたでしょう。これは、この後じわっと効いてくるでしょう。

安倍政権は、安倍首相の刹那的な威勢のいい啖呵で官邸と関連省庁の雑用を増やし、本質的な仕事の時間を浪費しました。やらなくてもいい仕事の典型は「アベノマスク」でしょう。そして「有言不実行」の嘘をばらまきました。「国民全員がPCR検査を受けられるようにする」等等。

加えて安倍内閣は「安倍一強」と言う言葉に酔って、リーダーシップと強権専制を取り違えていました。ですから日本国民の大部分は、安倍元総理にリーダーシップがあったとはほとんど思っていない。ただ海外では森友学園、加計学園、桜の会など知られていませんから、これをシンゾウのリーダーシップと麗しい誤解をして評価していますが。

#### 世襲議員への期待 河野太郎

アベノミクスで進展しなかった規制改革の大部分は抵抗勢力が阻んで来ましたから、これは強権専制の得意の技が有効でしょう。いくつかの課題は結論が出ていますし、それなりに進行中ですから、これ以上の議論はとりあえず必要ありません。河野大臣の突破力を期待したいです。やって見せる、です。世襲議員の強みは受け継がれた支持基盤が強く、言いたいことが言え、やりたいことが出来る環境にいる人が多いことです。彼には祖父河野一郎以来の地盤があります。

ただここに来て突然、学術会議を行政改革の対象とすると声明しました。菅首相の「6名の件は処理済み変更なし」という言明で、議論を学術会議の現状の問題点と改革に切り替え、任命拒否問題をフォローする話を後付けで作るようです。学術会議の現状に問題はありますが、これは今やら

なくてもいいことです。結果として河野大臣は肝心の規制改革の前に、この処理で当分忙殺されるでしょう。さらに今言わなくてもいいのに、予算の見直しといった、まさにアメとムチの話は、この問題の議論を厄介にします。ボヤで済んだかもしれない学術会議の問題を、菅政権は空気を吹き込み炎上させる結果になりました。

思い出して頂きたいのは、森友学園問題で、安倍首相の「私や妻が関係しているようであれば総理も議員も辞職する」と啖呵を切った結果、これの辻褃合わせの後処理で忙殺され長期政権であったにもかかわらず、財務省は本質的な仕事が何も出来ずに終わっています。そして自死者まで出してしまいました。

### 小泉進次郎の実力テスト

もう一人の三世議員の小泉進次郎は、外野席の時期は威勢のいいヤジを飛ばしていましたが、大臣就任後は「鳴かずとばず」で何も出来ず、国際舞台でスウエーデンの女子高校生に揶揄されるあり様です。折角再任されたのですから、結論が出ている福島原発の汚染水の海上放出を決着させ、これまた結論の出ている石炭火力全廃の方向と再生エネルギー、とりわけ洋上風力発電の強力推進をやって見せろ、といたいですね。高効率の石炭火力以外は輸出支援しない？ ヨーロッパでは非常識です。

世界舞台でグレンさんに今度会ったら、揶揄されてまた恥をかくのでしょうか。環境省は調整が使命ですから三世議員仲間の河野太郎の助けを借りて、経済産業省と農水省をねじ伏せるくらいの腕力を見せないと「滝川クリステルのお婿さん」で終わりです。

政府、学術会議推薦者任命せず 共謀罪反対の候補ら一部

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64462780R01C20A0000000/>

菅改革に日本医師会が抵抗 オンライン診療や不妊治療

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64591200T01C20A0EA3000/>

福島第1処理水の海洋放出 政府、早期判断探る

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64806400Y0A001C2EA1000/>

福島原発の処理水 海洋放出大詰め協議 政府、週内に農・漁業団体と

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO64590260T01C20A0EA3000/>

石炭火力輸出絞り込み 高効率限定で脱炭素化支援

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO61347290Z00C20A7EA2000/>

銚子沖で洋上風力、現場で見た期待と課題

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO62499960R10C20A8000000/>

急拡大する洋上風力発電の現状と将来展望 東京大学 大学院工学系研究科石原 孟

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jwea/35/2/35\\_4/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jwea/35/2/35_4/_pdf)

### ◆第78回俯瞰サロンのご案内◆

シリアルアントレプレナー猪塚武さんに聞く

カンボジアでの工科大学設立とこれから

猪塚武さんは、自ら設立したソフトウェア開発会社を売却後、カンボジアの高原「キリロム国立公園」の森の中に、カンボジアと日本の学生が共に最先端のITと経営を学べるキリロム工科大学を設立されました。カンボジアは過酷な内戦を経て、現在、平均年齢は約25歳、経済は年7%程度で成長し、2080年まで人口増が見込まれているそうです。そしてこの8月には茂木外務大臣が、新型コロナウイルスによる往来規制後初めての海外要人として訪問し、経済、人材の交流を一層深めようとしています。猪塚さんの目指すところ、そしてコロナ禍により世界が変わろうとしている今後についてうかがいます。

## <記>

- ・日時:10月17日(土)  
14:00~16:00(開場:13:50)終了後1時間ほど(オンライン懇親会)
- ・参加費用:500円(税込)
- ・お申込サイト(peatix を利用しています):  
<https://fukansalon78.peatix.com/view>  
サイトのパスワードは、fukan78 です。

※当日の ZoomURL は、お申込後に Peatix から自動送信される申込受付メールに記載していますので、当日まで保管してください。

## <講師:猪塚 武(いづか たけし)さん ご紹介>

1967年香川県出身。早稲田大学理工学部卒、東京工業大学修士課程修了。アクセンチュアを経て、政治家を志すが落選。1998年に株式会社デジタルフォレストを設立し日本 No.1(2006年)のアクセス解析ソフトの会社になる。2009年に NTT Communication 社に事業売却。2011年よりキリロム工科大学を中心とした「v キリロムネイチャーランド」を立ち上げる。キリロム工科大学は英語で先端 IT を学ぶ大学でカンボジアのトップの学生と日本人学生が共に全寮制で学ぶ。持株会社である、vKirirom Pte. Ltd.は「デロイト アジア太平洋地域テクノロジー Fast 500」に2017年、2018年、2019年の3年連続ランクイン。世界的な起業家組織 EO の日本支部会長、カンボジア支部ファウンダー、アジアの理事を歴任。一般社団法人 WAOJE 前代表理事。

(キリロム大学の web サイトより転載 <https://www.kirirom.info/izukatakeshi/>)

## ※録画と公開について

Zoom の機能を使って録画し公開を予定しています。

映像が残ることがお嫌な方は、ビデオカメラのアイコンをクリックして映像をオフにして参加していただきます。

## ・参考資料

キリロム工科大学 <https://www.kirirom.info/>

経済界 2019年2月18日

猪塚武氏に聞く「カンボジアでの大学づくりと日本の教育の問題点」

<https://net.keizaikai.co.jp/archives/34891#i-2>

## ◆俯瞰人の日常生活 デジタル書齋、交流、食事、健康、……◆

現役時代を含めると18年間、東大の本郷で続けてきた「俯瞰経営塾」のゼミを今年も準備してきましたが、3月の終わりになって新学期の状態が全く見えなかったため、とりえず冬学期に延期しました。ただ冬学期になると外資系を中心として就活が始まりますので、学生が十分な時間を取ることができません。そこで学生達と議論をして、今年だけは特別なプログラムでやることにしました。これまでは13回の授業をしてきましたが、今年は本格的な就活が始まる前の6回にしました。そして内容もズバリ「コロナ後の世界」をテーマにしました。これから人生を選択する学生にとって、出て行く世界は「コロナ後の世界」です。これについてある程度俯瞰的な認識を持っていないと適切なキャリアの選択ができません。といっても誰も判らない答えのない課題ですから、それだけでなく俯瞰的な知識が乏しい学生にとって難しいテーマになります。

そのために松島研究室のOBで、社会の最前線で活躍している4人をアドバイザーに頼むことにしました。ほかにも人材は何人もいますが、この4名はそれぞれ40歳前にキャリアをブレイクしています。グローバルファームのパートナー、金融庁の幹部、グローバル製造業の常務、投資銀行のグローバルMDとしてグローバルビジネスの最前線の戦場を知っている人達です。彼らにとっても今回のテーマは直面する現実のテーマです。

現在進行形ですが、学生もかなり苦戦しています。今年は諸般の事情もあって、これまで30人くらいであった学生が10名です。従来は5人のチームを6チーム作りましたが、今年は5人ずつ2チームにしました。

事前のミーティングは多分オンラインと対面の両方でやっていると思います。ゼミ自体はリアルなミーティングとネット参加のハイブリッドです。リアルのほうは大学の教室を使用することもできますが、借用の過程であれこれややこしい話があるかと思って、私がセンター長をしているDMGMORIの先端技術研究センター(<http://www.etl-dmgmori.com/>)のミーティング設備を使います。スペースが十分あるので物理的な距離が確保されますし、対面式ではなく正面のスクリーンに向かって円弧上に座りますから直接飛沫が飛ぶ事はありません。先端技術研究センターはネットで見学できます。

3月末に準備したアジェンダは下記です。

- 第1回 4月16日 リーダーシップ マネージャーとリーダーは似て非なる
- 第2回 4月23日 人事とは Aクラス社員、Bクラス社員、Cクラス社員
- 第3回 4月30日 マーケティング 1.0 2.0
- 第4回 5月7日 マーケティング 3.0
- 第5回 5月14日 テクノロジー AI、IoT
- 第6回 5月21日 イノベーション(事例 “サムライたちのイノベーション”)
- 第7回 5月28日 イノベーション (オープンイノベーション)
- 第8回 6月4日 会計(BS/PLの読み方)
- 第9回 6月11日 企業価値の算出(DCF)
- 第10回 6月18日 M&Aとは
- 第11回 6月25日 経営戦略
- 第12回 7月2日 ドラッカーの経営学
- 第13回 7月9日 中期経営計画の策定

そして今回のアジェンダは下記です。

- 第1回 9月24日 コロナ後の社会の変化
- 第2回 10月1日 産業構造はどう変わるか
- 第3回 10月8日 世界経済はいつ復活するか
- 第4回 10月15日 G0の世界の地政学
- 第5回 10月22日 資本主義の未来
- 第6回 10月29日 コロナ後の日本

毎週木曜日の午後はこのゼミのファシリテーターです。「声が小さい、カメラを見て語りかけるように話せ、通常の八割程度のスピードでゆっくりと話せ」など、ネット会議のスキルも指導しています。私は毎回リアル参加です。以前はお辞儀の仕方も練習していました。「人は外見と、第一印象で評価される」という現実社会を説明しています。外見には言葉遣い、話し方、姿勢も含まれます。「あー、うー……」ではリーダーシップは発揮できません。プロフェッショナル・イメージを意識するように、そして自分の市場価値を意識するようにも言っています。

ただし新旧二つのプログラムに共通することは、知的腕力の習得を追求する場であり、知識はあくまでついてくるものです。知的腕力とはこのゼミでは「情報の収集・分析・編集を高いレベルで短時間に行うスキル」です。「知的生産技術」という知識ではありません。

以上最近の俯瞰人の日常の、一番大変で時間を割いてきた活動をご案内しました。

---

#### ◆私感・雑感◆

日本や、中国、韓国では、「自業自得」ということでトランプ大統領のコロナ感染を受け止める人も多いでしょう。ベトナム戦争の戦死者を遙かに超える死亡者を無視して、あれだけコロナ軽視の迷言を連呼してきたトランプ大統領ですから。それでもトランプ支持層はびくともしないアメリカ社会の構造は怖いですね。必要ないと判っていて広島、長崎の原爆投下を命令したトルーマン大統領に共通する根っこがあるのでしょうか。

学術会議の問題に対するコメンテーターのコメントが、あまりにもレベルが低すぎます。「学術会議のことはわからないのですが」と言いながら意味不明なコメントをしています。威勢のいい橋下某は迷言を飛ばしていますが、全くコトの本質が分かっていない感じです。お笑い3人組のような「・・・ショー」のコメンテーターに比べると「サンデーモーニング」のコメンテーターはかなり水準が高いですね。

「学問の自由」はフランス革命、民主主義の基本原則である「法の下での平等・経済的自由・自由な私的所有」、そして資本主義の基本原則である「人民主権・権力分立・経済的自由権」の人権保障に基づく下部構造です。自分と異なる価値観と意見があることを認めることは、民主主義の根幹です。従って「学問の自由」が脅かされることは「思想の自由」と「人権」が脅かされるという議論に繋がります。今さらこの議論に政府が突っ込む必然はありません。「総合的、俯瞰的」を連呼していますが、俯瞰という言葉を使って欲しくはないですね。

行政の隅々まで官邸の意向を反映させるという、安倍内閣以来の強権政治は、中国やロシアその他専制政権の国々と相通ずるものがあります。日本の民主主義の危機を感じる人は、この学術会議の問題をこのようにとらえて、決して口を閉ざすことはないでしょう。とりわけ学術会議の構成員の科学者は業界関係者ではありませんから、一般の諮問委員会などとは性格が異なります。一人一人が独立していて組織に縛られていません。いまさら天動説、地動説ではありませんが、この「学問の自由」があつてこそ、人類に新しい知見を提供してきたのです。この問題は改めて場所を変えて議論をする必要があります。

猛暑を避け長い夏の間、森の中でパートナーと、ヒマワリの種を食べに来る小鳥たちと暮らしてきましたが、心理的には大変不健康な生活でした。人は社会の中で生きているのです。東京の価値は多様な人達と会い、話し、会食できることだと改めて再認識しました。4月以来、名刺交換はただの一枚でした。それまでは月数十枚の名刺交換をしていました。また東京にいても新しい人との出会いがない生活は、東京の暮らしではありません。十月から再始動を心掛けています。

夏の休暇中いろいろな料理に挑戦してきましたが、これについては次回にお話ししましょう。台所の道具の整備もしました。改めて私の基本の料理、ビーフシチュー、ロースのトンかつ、ポトフ、ローストポーク、マーボー豆腐、ガスパチョ、パエリア、炊き込みご飯、野菜炒めなど、レシピを見直して基本に立ち返る重要性を痛感しました。

私は料理そのものを生きる喜びとして楽しむものと考えています。食べたいなと思ったらそれを作る、賞味する、です。といっても満足する仕上がりにはなかなかありません。

---

◆俯瞰 MAIL 第 2 世代 001 号(2020 年 10 月 12 日)◆

編集: 俯瞰人(松島克守)

発行: 一般社団法人俯瞰工学研究所

配信: 石川公子

内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は下記まで

URL: <https://www.fukan.jp/>